

指定管理者評価シート

事業名	ジャンプ競技場等運営管理	所管課(電話番号)	スポーツ局スポーツ部施設課(211-3045)
-----	--------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市大倉山ジャンプ競技場	所在地	中央区宮の森
開設時期	昭和45年12月(平成11年12月改修)	延床面積	8658.19㎡
目的	ジャンプ競技に対する市民の理解を深め、ジャンプ競技の普及振興及び競技力の向上を図る		
事業概要	ジャンプ競技の場の提供		
主要施設	ラージヒルジャンプ台、運営本部棟、ミュージアム棟、スタートハウス棟、エスカレーター棟、審判棟		
名称	札幌市宮の森ジャンプ競技場	所在地	中央区宮の森1条18丁目
開設時期	昭和45年12月(平成17年改修)	延床面積	664.31㎡
目的	ジャンプ競技に対する市民の理解を深め、ジャンプ競技の普及振興及び競技力の向上を図る		
事業概要	ジャンプ競技の場の提供		
主要施設	ノーマルヒルジャンプ台、特殊索道、運営本部		
名称	札幌市荒井山ジャンツェ	所在地	中央区宮の森
開設時期	平成15年11月	延床面積	254.78㎡
目的	ジャンプ競技に対する市民の理解を深めるとともに、ジャンプ競技の普及振興及び競技力の向上を図る		
事業概要	ジャンプ競技の場の提供		
主要施設	ミディアムヒルジャンプ台、スモールヒルジャンプ台、スロープカー、ロッジ、審判棟、スロープカー車庫		
名称	札幌オリンピックミュージアム	所在地	中央区宮の森
開設時期	平成12年4月	延床面積	5034.43㎡
目的	オリンピック及びパラリンピックの歴史と価値並びに冬季オリンピック開催都市としての栄誉と功績を後世に継承するとともに、広くウィンタースポーツに関する興味と理解を深める機会を提供し、もってオリンピック及びパラリンピックの理念を広く伝えるとともに、ウィンタースポーツの普及振興に寄与する		
事業概要	(1)オリンピック及びパラリンピック、冬季オリンピック札幌大会等本市で開催されたウィンタースポーツの国際大会並びにウィンタースポーツに関する資料の収集、保管及び展示 (2)オリンピック及びパラリンピック並びにウィンタースポーツに関する資料の収集、保管及び展示 (3)ウィンタースポーツの疑似体験装置の展示 (4)その他ミュージアムの設置目的を達成するために必要な事業		
主要施設	展示ゾーン、体感・体験ゾーン、競技情報ゾーン、ウィンタースポーツシアター、多目的ホール、ライブラリー		
2 指定管理者			
名称	株式会社 札幌振興公社		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募		
指定単位	施設数:4 複数施設を一括指定の場合、その理由:ジャンプ場は競技ランク(ラージ、ノーマルなど)別に整備しているが、利用調整などは一体で行う必要がある。また、ミュージアムについては大倉山再整備計画により建設された関連施設であり、利用のされ方なども一体不可分の要素が高い。		

業務の範囲	【ジャンプ競技場】 (1)施設の維持及び管理 (2)施設を使用に供すること (3)ジャンプ場条例第1条に規定する設置の目的を達成するために必要な事業 (4)使用承認等に関すること (5)大型映像車の運行に関すること (6)上記各業務に付随する業務 【ミュージアム】 (1)施設の維持及び管理 (2)ミュージアム条例第2条各号に掲げる事業の計画及び実施 (3)ミュージアム条例第13条に掲げる資料の貸出し (4)使用承認等に関すること (5)上記各業務に付随する業務
3 評価単位	施設数: 4 複数施設を一括評価の場合、その理由: 同一の管理主体が管理を行っており、ひとつの基準で管理を行っているため

II 令和7年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価																			
1 業務の要求水準達成度																						
(1) 統括管理 業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 札幌市ジャンプ競技場等の設置目的、目指す成果を踏まえ、また平成18年から10年を超える指定管理者としての経験を活かし、管理運営業務に関する基本方針を策定した。	管理方針に基づき、ジャンプ競技への関心及び競技力の向上やウィンタースポーツの普及と振興に努めた。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table> 全ての要求水準を達成していることから『B』評価とする。 なお、小項目別の評価は以下のとおり。	A	B	C	D															
	A			B	C	D																
	▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 仕様書に基づき施設等の利用に関する業務については、庶務係を窓口として適正かつ平等に遂行した。																					
	▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 HES（北海道環境マネジメントシステムスタンダード）に準じて、当社で管理する施設や様々なサービス等から発生する環境に関わる影響を低減するため継続して環境改善活動に取り組んでいる。	R7年度の電気使用量、水使用量については、ミュージアムが機器更新のため11/10～1/16まで休館していた影響や、来場者がR6年度よりも減少した影響などにより、使用料も減少した。 ガソリン・軽油使用量が増加したのは、大雪に伴い除雪車の稼働が増えたことによるもの。 今後も、目標達成に向け各社員が環境への配慮を意識し、特にペーパーレス化に向けた取り組みをして事務用紙使用量削減に取り組んでまいりたい。	管理運営方針に基づき業務を適正に遂行している。水使用量や電気使用量については、来場者の減少により削減されており、ガソリン・軽油や事務用紙の使用量についても昨年度と比較し概ね横ばいで推移するなど、環境配慮へ取り組みを継続している。																			
	<table><tr><th>項 目</th><th>R6実績</th><th>R7実績</th><th>前年対比 削減率</th></tr><tr><td>電気使用量の削減</td><td>1,180,345</td><td>1,110,655</td><td>94.1% △ 5.9%</td></tr><tr><td>水使用量の削減</td><td>17,492</td><td>14,918</td><td>85.3% △ 14.7%</td></tr><tr><td>ガソリン・軽油使用量の削減</td><td>2,620</td><td>2,728</td><td>104.1% 4.1%</td></tr><tr><td>事務用紙使用量の削減</td><td>110,000</td><td>112,500</td><td>102.3% 2.3%</td></tr></table>			項 目	R6実績	R7実績	前年対比 削減率	電気使用量の削減	1,180,345	1,110,655	94.1% △ 5.9%	水使用量の削減	17,492	14,918	85.3% △ 14.7%	ガソリン・軽油使用量の削減	2,620	2,728	104.1% 4.1%	事務用紙使用量の削減	110,000	112,500
項 目	R6実績			R7実績	前年対比 削減率																	
電気使用量の削減	1,180,345	1,110,655	94.1% △ 5.9%																			
水使用量の削減	17,492	14,918	85.3% △ 14.7%																			
ガソリン・軽油使用量の削減	2,620	2,728	104.1% 4.1%																			
事務用紙使用量の削減	110,000	112,500	102.3% 2.3%																			
▽ 管理運営組織の確立（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成） 統括責任者を事業部長と定め、管理運営業務を統括し業務の適正・効率化を図った。 計画書に基づいた人員配置に努め、欠員が生じた場合は新規採用により人員を確保した。 教育・研修計画に基づき研修等を実施した。 AED取扱いを含めた普通救命講習を実施し救急事態での対応に備えた。																						
▽ 管理水準の維持向上に向けた取組 職場ミーティングを適宜行い、業務の問題点や改善・サービスの向上等について意識の統一や情報の共有に努めた。	今後も社員全員で更なるサービス向上を目指し、ミーティング等の中で改善に努めていきたい。																					

▽ 第三者に対する委託業務等の管理（業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認） 軽微なものを除き計画に基づき適正な業務委託を行った。 また、委託先への適切な指示、連絡等により、仕様書に基づいて適正かつ確実に業務が遂行された。	業務計画に沿って適正な再委託を行った。																	
▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整等（運営協議会等の開催） 荒井山ジャンプ利用者連絡協議会 <table><tr><th>開催日</th><th>協議・報告内容</th></tr><tr><td>4/7</td><td>令和7年度の活動計画 要望事項</td></tr></table> <協議会メンバー> 札幌市スポーツ部、札幌スキー連盟理事、 札幌ジャンプ少年団役員、大倉山事業部担当者 札幌市ジャンプ競技場等運営協議会 <table><tr><td>4/24</td><td>第1回</td><td>議題：1月～3月までの業務報告等 （施設利用状況等について） 意見交換会</td></tr><tr><td>7/24</td><td>第2回</td><td>議題：4月～6月までの業務報告等 （施設利用状況等について） 意見交換会</td></tr><tr><td>11/13</td><td>第3回</td><td>議題：7月～9月までの業務報告等 （施設利用状況等について）</td></tr><tr><td>2/16</td><td>第4回</td><td>議題：10月～12月までの業務報告等 （施設利用状況等について） ミュージアム視察（機器更新に伴う視察）</td></tr></table> <協議会メンバー> 札幌市スポーツ部、札幌スキー連盟理事、地元自治会長他有識者数名、大倉山事業部担当者	開催日	協議・報告内容	4/7	令和7年度の活動計画 要望事項	4/24	第1回	議題：1月～3月までの業務報告等 （施設利用状況等について） 意見交換会	7/24	第2回	議題：4月～6月までの業務報告等 （施設利用状況等について） 意見交換会	11/13	第3回	議題：7月～9月までの業務報告等 （施設利用状況等について）	2/16	第4回	議題：10月～12月までの業務報告等 （施設利用状況等について） ミュージアム視察（機器更新に伴う視察）	協議会開催計画に基づき行い、情報の共有や問題の改善に積極的に取組んだ。 R7年度の運営協議会の新たな取り組みとして、毎回議題を決め、ジャンプ競技への関心の強化や、ジャンプ大会来場者増に向けての取り組みなどについて意見交換を行った。 次年度以降も関係機関と連携を図り、円滑な運営に努めていきたい。	札幌市や関係団体との協議を定期的実施し、問題点の共有、改善に向けて努力している。 特に、利用者の代表となる競技団体との調整は重要であるが、適切に対応を行っている。
開催日	協議・報告内容																	
4/7	令和7年度の活動計画 要望事項																	
4/24	第1回	議題：1月～3月までの業務報告等 （施設利用状況等について） 意見交換会																
7/24	第2回	議題：4月～6月までの業務報告等 （施設利用状況等について） 意見交換会																
11/13	第3回	議題：7月～9月までの業務報告等 （施設利用状況等について）																
2/16	第4回	議題：10月～12月までの業務報告等 （施設利用状況等について） ミュージアム視察（機器更新に伴う視察）																
▽ 財務（資金管理、現金の適正管理） 指定管理業務と他事業の経費を明確に区別し、社内外からの監査を受け適正に管理している。 現金管理責任者を定め管理チャートに基づいた、取扱い・保管を行い、適正に現金・金券等を管理している。	適正かつ明確な資金や現金管理の徹底に努めた。	必要な規程類を整備するとともに、複数の監査・検査により健全な管理に努めている。 今後もコンプライアンスを確保し、透明性の高い財務運営を期待する。																
▽ 要望・苦情対応 利用者、その他市民からの意見、要望を受けた場合は誠意をもって対応している。 指定管理業務と関わりのない市政に関する要望等については、札幌市へ速やかに報告している。	お客様からの意見・要望については、可能な限り対応しサービス向上に反映した。	要望等については、来場者のアンケートのみならず、連絡調整会議等の機会において競技利用者の声を聴取し、できる限りの対応を行っている。																
▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施） アンケートの結果を受けて、意見や要望を検証し、管理運営の改善に反映させている。 ジャンプ競技関係先からの要望や意見を受けて、対応するように努めた。 札幌市の検査依頼、報告事項等については、速やかに対応した。	過年度の事業の実施状況や経緯・経過を分析・検証するなどして、的確・迅速な対応に努めた。																	

(2)労働関係 法令遵守、雇 用環境維持向 上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上 就業規則、勤務時間を順守し、時間外労働にあたっては36協定での取決めを定め届出をした。 雇用にあたっては社会保険、労働保険への加入を行い必要に応じ届出をした。 全ての社員に対し1年に1回の定期健康診断の受診を実施した。 なお、労働基準監督署からの指導等は受けていない。	適切な労務管理に努めた。	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">全ての要求水準を達成していることから『B』評価とする。 法令を遵守し、雇用環境の維持向上に努めている。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	全ての要求水準を達成していることから『B』評価とする。 法令を遵守し、雇用環境の維持向上に努めている。							
A	B	C	D												
全ての要求水準を達成していることから『B』評価とする。 法令を遵守し、雇用環境の維持向上に努めている。															
(3)施設・設備 等の維持管理 業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) 利用者の安全確保については、施設の巡回警備による安全確認や職員の巡回により危険箇所の早期発見に努めた。 施設賠償保険の他、各種イベント時は参加者等の万が一の怪我、事故に備え別途傷害保険に加入している。 また、事故や急病人の発生に備えて、各施設(4施設)に設置したAEDの点検等を行った。AED講習は緊急時に迅速に対応できるよう、R7年度も大倉山所属の各セクションの従業員が受講した。 平成17年6月に定めた「個人情報の保護に関する方針」に基づき、細心の注意を払って、保有する個人情報の保護に努めた。 拾得物等の取扱いについては、適正に対処した。 連絡体制の確保については、各施設へ必要な連絡先を掲示した。 また、緊急時連絡先を事業部内に掲示し緊急時に備えた。 ▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) 施設及び設備の全般の機能を良好に維持するため、札幌市ジャンプ競技場等管理運営業務仕様書に基づいて作成した業務計画書のとおり適切に業務を遂行した。 なお、軽微なものを除いた特殊性のある業務については再委託計画に基づき業務委託した。 ※委託業務の内容については、別紙1のとおり ▽ 防災 防災計画を策定し、計画に基づいた消火、避難誘導訓練を消防設備関連業者指導の下実施した。(9月・3月) 災害や機械故障を想定し、索道救助訓練を実施した。(4月)	計画に沿った管理運営の中で、利用者の安全確保や個人情報の保護など、安全・安心な施設運営体制を構築していきたい。 業務計画書に沿った適正な施設・設備の維持管理に努めた。次年度以降も継続して関係各所と連携の下、業務を遂行していきたい。 今後も防災計画に基づき安全・危機管理対策に努めていきたい。また、社員の更なる防災意識を高めるような訓練を実施していきたい。	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">全ての要求水準を達成していることから『B』評価とする。 なお、小項目別の評価は以下のとおり。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">計画に沿った適正な施設の維持管理を行い、利用者の安全管理にも十分配慮している。 また、防災や危機管理対策については、緊急時に備えた体制を構築し、災害等を想定した訓練を適切に行っている。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	全ての要求水準を達成していることから『B』評価とする。 なお、小項目別の評価は以下のとおり。				計画に沿った適正な施設の維持管理を行い、利用者の安全管理にも十分配慮している。 また、防災や危機管理対策については、緊急時に備えた体制を構築し、災害等を想定した訓練を適切に行っている。			
A	B	C	D												
全ての要求水準を達成していることから『B』評価とする。 なお、小項目別の評価は以下のとおり。															
計画に沿った適正な施設の維持管理を行い、利用者の安全管理にも十分配慮している。 また、防災や危機管理対策については、緊急時に備えた体制を構築し、災害等を想定した訓練を適切に行っている。															
(4)事業の計 画・実施業務	▽ オリンピックパラリンピック及びウィンタースポーツの普及振興、調査研究に関する業務 ①自主研修の場の提供(267校来場) ②教育普及活動(企画展示2回、イベント5回) ③実習の受入れ(0校) 学生より問い合わせはあったものの、その後の申し込みがなかったため、今年度の実施はなかった。 ④常設展示 令和6年度に新設した2階の「ウィンタースポーツの街・札幌の発展」コーナーに英訳パネルを追加、2階パノラマシアターのプロジェクターを更新、2階特別展示室を更新(賜杯の実物展示、宮様スキー大会国際競技会優勝者名簿のデジタルアーカイブ化)、1階体験ブースの「スキージャンプ大倉山」「テイクオフ・タイミング」「ボブスレー滑走」「スピードスケート・トレーニング」「アイスホッケーゴールキーパー体験」のシミュレーション映像や機器類を更新、1階ウィンタースポーツシアターの音響設備、プロジェクター及び上映プログラム2本のうち、オリンピック・パラリンピックとは何かを学ぶ映像を更新、3階総合案内用デジタルサイネージを更新。 ⑤校外学習(小学校69校、中学校5校、高等学校0校、大学2校、特別支援学校関係1校を実施)	R7年度は、概ね業務計画に沿った活動を行うことができた。以下、主な業務の自己評価を記載する。 ②については、2月～3月に開催されたオリンピック・パラリンピックを取り上げた特別展示を1～4月にかけて実施し、大会開催前後で展示物の入れ替えを行い来館者の満足度の向上を図った。 また、継続して実施しているゴールデンウィークイベントやノルディックウォーキングイベントは例年同様に盛況であった。	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">全ての要求水準を達成し、要求水準を超える取組が行われていることから、『A』評価とする。 (項目は「オリンピックパラリンピック及びウィンタースポーツの普及振興、調査研究に関する業務」1項目)</td> </tr> </table>	A	B	C	D	全ての要求水準を達成し、要求水準を超える取組が行われていることから、『A』評価とする。 (項目は「オリンピックパラリンピック及びウィンタースポーツの普及振興、調査研究に関する業務」1項目)							
A	B	C	D												
全ての要求水準を達成し、要求水準を超える取組が行われていることから、『A』評価とする。 (項目は「オリンピックパラリンピック及びウィンタースポーツの普及振興、調査研究に関する業務」1項目)															

⑥オリンピック・パラリンピック教育

札幌市教育委員会のオリ・パラ教育推進事業の研究校に指定された65校(昨年度63校)を対象に実施した。

実施にあたっては、ミュージアムの学芸員を中心に阿部館長や北海道オールオリンピアンズから派遣されたオリンピアン・パラリンピアンと連携し、競技種別ごとの特長等を活かした講義となるよう調整を行ったほか、学芸員の説明によるジャンプ台及び館内案内、シミュレーター体験を通して、限られた時間の中で大会やウィンタースポーツの意義や魅力を最大限伝えるよう努めた。

また、各学校には児童の学年や地域等によって授業内容を事前に教諭と調整し、児童の興味を促すことでより理解を深める授業になるよう努めた。

⑦収蔵品データベース化

展示物・収蔵品の調査データを113件追加登録。(現在15,171件を登録)

⑧収蔵品の収集・調査・研究・展示

・冬季オリンピック札幌大会関連資料の収集および調査・研究・展示

- ・寄贈された資料の調査研究(奥平恒望氏、延与玲子氏ほか)
- ・オリンピアン・パラリンピアン の用具収集・展示(中村直幹氏、松本遥奈氏ほか)

⑨館内イベント

1894年6月23日のIOC創立を記念して世界中で行われる「オリンピック・デー」イベントとして、年齢・性別・身体能力にかかわらず、誰でも無理なく始められるノルディックウォーキングを通してスポーツに親しむ機会を創出することを目的として、初心者向けに講義と実技を一度で学べる講習会を開催した。

⑩スポーツミュージアム連携事業

平成27～29年度及び令和2～3年度に実施したスポーツミュージアム間の連携プロジェクトで得られた成果と課題を踏まえ、ネットワークの新設・知見の共有・スポーツ文化共創の仕組みの構築を目的とした諸外国の代表的なスポーツミュージアム及び既存の国内ネットワークの調査を行う事業(令和7年度 Innovate MUSEUM事業「令和7年度スポーツ文化共創『つながる』プロジェクト事業」)に参加し、当館はスイス及びイタリアの施設を視察した。

⑪第48回JOAセッションへの参加

今回のセッションは北海道札幌を会場に「ミラノ・コルティナ2026冬季大会に向けてオリンピック・ムーブメントを知ろう」をテーマに開催された。阿部

札幌市との連携事業として、JOAセッション会場、JAL SAPPORO SNOW SPORTS PARK及び札幌市役所本庁舎への展示協力を行い、市が掲げる目指す姿の実現に向けた、市民にスポーツの持つ力や価値、魅力への気づき、ウィンタースポーツ観戦文化の醸成を図った。

⑥については、H29年度から継続しているオリパラ教育は天候の影響や学校事情等による日程変更に対応し、希望する学校に対して概ね計画どおり実施することができ、65校が当該事業に参加した。昨年度に引き続き札幌市・札幌市から委託を受けた北海道オールオリンピアンズ・当館の3者で2か月に1回程度オリパラ教育連絡協議会を開催し、情報共有を行い、迅速な課題解決ができたことにより、より充実した事業運営となった。この取り組みは次年度も継続する予定である。

札幌オリンピックミュージアムを運営する中で、資料などの収集や更新を精力的に行い、オリンピックの理念を効果的に伝える工夫を行っている。加えて、令和2年から設置している北海道オール・オリンピアンズの拠点を活かした各種講座を開催し、来館者とオリンピアン・パラリンピアンが交流できる体制を継続している点は、オリパラ及びウィンタースポーツの普及振興に大きく寄与するものであり、高く評価する。

また、ウィンタースポーツの普及振興だけでなく、収蔵品の調査・研究等にも積極的に取り組んでおり、オリパラ教育では、授業内容を最適化するため、講師や学校と事前に調整を行い、学習効果が向上するような工夫に努めており、これらについて高く評価する。

今後もオリパラ教育の拡大や収蔵品の調査・研究等、更なるオリンピック・パラリンピック及びウィンタースポーツの普及振興事業の実施に期待する。

(5)施設利用に関する業務

区分	R6決算	R7計画	R7決算
大倉山ジャンプ競技場			
競技利用者	1,291	1,200	1,161
競技利用回数	79	65	64
大会・公式	23	21	21
その他催物	6	3	4
本部棟会議室	40	44	58
観覧フィールド	0	0	3
エントランス広場	1	0	1
テレビ中継装置	11	11	11
来場者	301,127	322,466	267,893
宮の森ジャンプ競技場			
競技利用者	2,276	2,700	2,357
競技利用回数	138	142	144
大会・公式	8	5	12
その他催物	0	0	1
来場者	10,588	11,000	9,222
荒井山シャンツェ			

R7年度は天候不良や、大会日程の関係で大倉山での競技利用は減少したが、宮の森の利用は増加した。

荒井山については、近隣のクマ出没情報により、10/12以降閉鎖となったため利用人数が落ち込んだ大倉山来場者数は、特に秋以降に来場者減が顕著となったが、要因としては①大倉山周辺のクマ出没情報②ミュージアム機器更新による休館③雪害による交通網のマヒなどがあげられる。

A B C D

全ての要求水準を達成していることから『B』評価とする。

なお、小項目別の評価は以下のとおり。

大倉山及び宮の森、荒井山の競技利用については、天候不良やクマ出没等の影響により計画を下回る結果となったものの、宮の森の競技利用人数は前年を上回っており、不測の事態に対しても適切な対応がなされた。今後も競技団体の要望に応え、体制を整えて柔軟に対応いただくよう期待する。

	<table> <tr> <td>競技利用者</td><td>2,261</td><td>1,900</td><td>1,798</td></tr> <tr> <td colspan="4">オリンピックミュージアム</td></tr> <tr> <td>有料観覧者</td><td>86,674</td><td>90,408</td><td>75,525</td></tr> <tr> <td>無料観覧者</td><td>31,080</td><td>30,300</td><td>27,484</td></tr> <tr> <td>観覧者合計</td><td>0</td><td>120,708</td><td>103,009</td></tr> <tr> <td>シアター</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr> <td>多目的ホール</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr> <td>ライブラリー</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr> <td>エントランスホール</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr> <td colspan="4">大型映像車</td></tr> <tr> <td>利用回数</td><td>23</td><td>23</td><td>23</td></tr> </table>	競技利用者	2,261	1,900	1,798	オリンピックミュージアム				有料観覧者	86,674	90,408	75,525	無料観覧者	31,080	30,300	27,484	観覧者合計	0	120,708	103,009	シアター	0	0	11	多目的ホール	0	0	0	ライブラリー	0	0	1	エントランスホール	0	0	1	大型映像車				利用回数	23	23	23		大倉山の来場者数及びミュージアムの観覧者数については、周辺でのクマ出没やミュージアムの機器更新に伴う休館、雪害による交通網の麻痺等の影響から計画を下回る結果となったが、引き続きPRを行い、来場者数等の増加が図られることを期待する。
競技利用者	2,261	1,900	1,798																																												
オリンピックミュージアム																																															
有料観覧者	86,674	90,408	75,525																																												
無料観覧者	31,080	30,300	27,484																																												
観覧者合計	0	120,708	103,009																																												
シアター	0	0	11																																												
多目的ホール	0	0	0																																												
ライブラリー	0	0	1																																												
エントランスホール	0	0	1																																												
大型映像車																																															
利用回数	23	23	23																																												
	▽ 不承認0件、取消し0件、減免30件、還付0件 施設の利用に関する業務については、庶務係を窓口として適正かつ平等に遂行した。 また、施設利用の申し込み者が重複した場合の平等性を保つための調整会議メンバーを定めた。 ※ジャンプ競技場等の利用状況等については、別紙3のとおり																																														
	▽ 利用促進の取組 イベント・会議・展示会場として競技場施設やミュージアム、大型映像車の利用についてHP掲載や地域町内会等への案内等を行った。 自主事業として6月～10月の毎週金・土・日曜日はジャンプ練習での使用におけるジャンプ台使用料を無料とし、競技利用者(選手)のトレーニング促進に努めた。																																														
(6)付随業務	▽ 広報業務 ・イベントやジャンプ大会に関する情報をHPIに掲載することに加え、SNS(X、Instagram)で情報を発信することでより広く周知することができた。 ・市内観光施設、ホテル等へのパンフレット設置やポスターの掲示を依頼し、イベント開催時には大倉山周辺の町内会や店舗にチラシの配布等を行い、施設PRと利用促進に努めた。 ・広告宣伝については、夜間営業時に札幌市近郊住民向けにWEB・SNS広告を行い、リフトの夜間営業および施設の認知向上と誘客を行った。さらに、昨年に引き続きジャンプ競技場展望台へ設置しているお天気カメラを用いて、テレビ番組内にて2か月間、週1回の連動告知を行い、認知向上につなげた。 ・HPIについては、大倉山ジャンプ競技場で体験価値を伝える内容を追加し、観光地としての魅力を掲載した。 ・場内の入口2カ所にデジタルサイネージを設置し、運行情報や施設の紹介、イベント・ジャンプ大会に関する情報をタイムリーに発信し、施設の利用促進に努めた。 ・SNSについては、夜間営業時間限定でフォローすると夜景クッキープレゼントキャンペーンと、専用フォームから応募すると抽選で8組の方に関係者しか立ち入ることのできない特別エリア招待キャンペーンを実施し、競技場への誘致且つ顧客満足度向上につなげた。	HPIに加えてデジタルサイネージやSNSでも運行情報を発信することで利便性を高めることができた。また、SNS上でタイムリーな情報発信を行うことでフォロワー数や閲覧数を増やすことができた。今後は国内向けのPRのほか、インバウンド向けのPRも行い、また引き続きホテルや周辺町内会にも施設PRを行ってきたい。	<table> <tr> <td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr> <td colspan="4"> 全ての要求水準を達成し、「広報業務」の項目については要求水準を超える取組が行われていることから、『A』評価とする。 ホームページは単なる施設案内にとどまらず、札幌市を代表する観光施設としての魅力を掲載しているほか、オリパラ教育の予習復習にも活用できる内容として整備されている。 また、SNSを有効活用し、タイムリーな情報発信やフォロワー数増加の取組を実施するほか、テレビ局と連携した展望台からの眺望のライブ配信など、施設のPRや利用促進に資する広報活動を積極的に行っており、これら広報業務について高く評価できる。 </td></tr> </table>	A	B	C	D	全ての要求水準を達成し、「広報業務」の項目については要求水準を超える取組が行われていることから、『A』評価とする。 ホームページは単なる施設案内にとどまらず、札幌市を代表する観光施設としての魅力を掲載しているほか、オリパラ教育の予習復習にも活用できる内容として整備されている。 また、SNSを有効活用し、タイムリーな情報発信やフォロワー数増加の取組を実施するほか、テレビ局と連携した展望台からの眺望のライブ配信など、施設のPRや利用促進に資する広報活動を積極的に行っており、これら広報業務について高く評価できる。																																							
A	B	C	D																																												
全ての要求水準を達成し、「広報業務」の項目については要求水準を超える取組が行われていることから、『A』評価とする。 ホームページは単なる施設案内にとどまらず、札幌市を代表する観光施設としての魅力を掲載しているほか、オリパラ教育の予習復習にも活用できる内容として整備されている。 また、SNSを有効活用し、タイムリーな情報発信やフォロワー数増加の取組を実施するほか、テレビ局と連携した展望台からの眺望のライブ配信など、施設のPRや利用促進に資する広報活動を積極的に行っており、これら広報業務について高く評価できる。																																															
	▽ 引継ぎ業務 前回から継続指定のため、引継ぎ業務はなし。																																														
2 自主事業その他																																															
▽ 自主事業	ジャンプ競技場、ミュージアムの活用 ○展望台リフト特別夜間営業の継続実施 日本夜景遺産に選ばれた大倉山からの夜景を楽しんでもらうべく、夏期営業期間における夜間営業(20:30まで)を今年度も実施した。 ・期間:令和7年7月1日(火)～令和7年9月30日(火) ・利用者数:9,563名(期間合計)	スポフェスは1日目は天候に恵まれなかったが2日目は多くのお客様にご来場いただき、総来場者数は前年を上回った。 大倉山冬花火も、イベント告知の広報をさらに充実させ、前年より来場者数を増加することができた。	<table> <tr> <td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr> <td colspan="4"> 展望台リフトの夜間営業を引き続き実施するとともに、スポーツ体験イベントなどを実施し、施設のPRやスポーツの普及振興に努めたものと評価できる。今後も大倉山のジャンプ競技場と観光施設両方の魅力を活かした自主事業を実施することに期待する。 </td></tr> </table>	A	B	C	D	展望台リフトの夜間営業を引き続き実施するとともに、スポーツ体験イベントなどを実施し、施設のPRやスポーツの普及振興に努めたものと評価できる。今後も大倉山のジャンプ競技場と観光施設両方の魅力を活かした自主事業を実施することに期待する。																																							
A	B	C	D																																												
展望台リフトの夜間営業を引き続き実施するとともに、スポーツ体験イベントなどを実施し、施設のPRやスポーツの普及振興に努めたものと評価できる。今後も大倉山のジャンプ競技場と観光施設両方の魅力を活かした自主事業を実施することに期待する。																																															

○ビックラ！！スポフェス in 大倉山 野球・サッカー・バスケットボールなどの各種体験教室など様々なスポーツの体験イベントに加え、幼児向けの企画として新たに阿部館長による運動教室を実施した。イベントに伴い、クイズラリーの実施やキッチンカーによるグルメコーナーや、協賛企業によるPRブースなど盛りだくさんの内容で実施した。 ・期間:令和7年10月12日(日)・13日(月・祝)数:3,351人 ○大倉山冬花火 音楽と連動して冬空に幻想的なエンターテインメントを繰り広げるイベント。約30分間、約3,000発の花火を打ち上げた。花火打ち上げ前には、事前募集のリクエスト曲やメッセージをオンエアし、大切な人へ送るメッセージを読み上げ花火を打ち上げる「冬空に響くあなたのメッセージ」コーナーも設け、好評を博した。 ・期間:令和7年12月6日(土) ・来場者数:1,819人 ※その他集客イベント等に係る内容については、別紙4のとおり		今後も大倉山のジャンプ競技場と観光施設両方の魅力を活かしたイベント等の自主事業を実施していきたい。								
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 再委託、物品の購入等については、市内の企業を原則として活用した。										
3 利用者の満足度										
▽ 利用者アンケートの結果 <table><tr><td>実施方法</td><td> 通年で山頂展望ラウンジとミュージアム1階・2階にアンケート用紙を設置し、利用者が任意で記入したものを回収。 回答者数:788名(展望ラウンジ611 /名 ミュージアム/177名) </td></tr><tr><td>結果概要</td><td> 【年齢】10代(10歳未満含む):372名、20～30代:156名、40～50代:151名、60代以上:71名、無回答38名 【来場回数】初めて:631名、2回:95名、3～5回:35名、6回以上:19名、不明・無記入:8名 【地域】市内:178名、道内:56名、道外:457名、海外:36名、不明・無記入:54名 【接客】大変良い:455名、良い:186名、ふつう:110名、やや悪い:5名、悪い:6名、無記入27名 接客満足度98% $[(\text{大変良い}455+\text{良い}186)\div(\text{全体}788-\text{ふつう}110-\text{無記入}27)]=0.98$ 【施設を知ったきっかけ】テレビ・ラジオ等:57名、新聞・観光誌:100名 紹介:167名、インターネット:175名、旅行会社:36名、その他261名 【次回の来場】是非利用したい:333名、機会があれば:381名 利用しない:18名、無記入:56名 【総合満足度】大満足:380名、満足:223名、ふつう:109名 やや不満:11名、不満:5名、無記入60件 総合満足度97% $[(\text{大満足}380+\text{満足}223)\div(\text{全体}788-\text{ふつう}109-\text{無記入}60)]=0.97$ </td></tr><tr><td>利用者からの意見・要望とその対応</td><td> 【要望】ミュージアムシミュレーターの故障を直してほしい(多数) 【対応】札幌市によりシミュレーター機器更新が実施された。 【その他意見】 ・VRでジャンプ体験できたらよいと思う。 ・観光案内所等でもっとアピールしてほしい。 ・アンケートは外国人にも対応するとよいと思う。 ・展望ラウンジにもっとジャンプ競技の説明があるとよいと思う。 ・選手のパネルをもっと増やしてほしい。 ・スノボの展示がないので追加したほうが良い。 ・スキージャンプのスタート地点目線がわかる展望台が欲しい。 </td></tr></table>		実施方法	通年で山頂展望ラウンジとミュージアム1階・2階にアンケート用紙を設置し、利用者が任意で記入したものを回収。 回答者数:788名(展望ラウンジ611 /名 ミュージアム/177名)	結果概要	【年齢】10代(10歳未満含む):372名、20～30代:156名、40～50代:151名、60代以上:71名、無回答38名 【来場回数】初めて:631名、2回:95名、3～5回:35名、6回以上:19名、不明・無記入:8名 【地域】市内:178名、道内:56名、道外:457名、海外:36名、不明・無記入:54名 【接客】大変良い:455名、良い:186名、ふつう:110名、やや悪い:5名、悪い:6名、無記入27名 接客満足度98% $[(\text{大変良い}455+\text{良い}186)\div(\text{全体}788-\text{ふつう}110-\text{無記入}27)]=0.98$ 【施設を知ったきっかけ】テレビ・ラジオ等:57名、新聞・観光誌:100名 紹介:167名、インターネット:175名、旅行会社:36名、その他261名 【次回の来場】是非利用したい:333名、機会があれば:381名 利用しない:18名、無記入:56名 【総合満足度】大満足:380名、満足:223名、ふつう:109名 やや不満:11名、不満:5名、無記入60件 総合満足度97% $[(\text{大満足}380+\text{満足}223)\div(\text{全体}788-\text{ふつう}109-\text{無記入}60)]=0.97$	利用者からの意見・要望とその対応	【要望】ミュージアムシミュレーターの故障を直してほしい(多数) 【対応】札幌市によりシミュレーター機器更新が実施された。 【その他意見】 ・VRでジャンプ体験できたらよいと思う。 ・観光案内所等でもっとアピールしてほしい。 ・アンケートは外国人にも対応するとよいと思う。 ・展望ラウンジにもっとジャンプ競技の説明があるとよいと思う。 ・選手のパネルをもっと増やしてほしい。 ・スノボの展示がないので追加したほうが良い。 ・スキージャンプのスタート地点目線がわかる展望台が欲しい。	利用者からの意見等は全体で共有し、利用者のニーズの把握及び改善に努めた。今後も引き続き利用者からの意見を検証反映し、より良い施設運営を目指す。		
実施方法	通年で山頂展望ラウンジとミュージアム1階・2階にアンケート用紙を設置し、利用者が任意で記入したものを回収。 回答者数:788名(展望ラウンジ611 /名 ミュージアム/177名)									
結果概要	【年齢】10代(10歳未満含む):372名、20～30代:156名、40～50代:151名、60代以上:71名、無回答38名 【来場回数】初めて:631名、2回:95名、3～5回:35名、6回以上:19名、不明・無記入:8名 【地域】市内:178名、道内:56名、道外:457名、海外:36名、不明・無記入:54名 【接客】大変良い:455名、良い:186名、ふつう:110名、やや悪い:5名、悪い:6名、無記入27名 接客満足度98% $[(\text{大変良い}455+\text{良い}186)\div(\text{全体}788-\text{ふつう}110-\text{無記入}27)]=0.98$ 【施設を知ったきっかけ】テレビ・ラジオ等:57名、新聞・観光誌:100名 紹介:167名、インターネット:175名、旅行会社:36名、その他261名 【次回の来場】是非利用したい:333名、機会があれば:381名 利用しない:18名、無記入:56名 【総合満足度】大満足:380名、満足:223名、ふつう:109名 やや不満:11名、不満:5名、無記入60件 総合満足度97% $[(\text{大満足}380+\text{満足}223)\div(\text{全体}788-\text{ふつう}109-\text{無記入}60)]=0.97$									
利用者からの意見・要望とその対応	【要望】ミュージアムシミュレーターの故障を直してほしい(多数) 【対応】札幌市によりシミュレーター機器更新が実施された。 【その他意見】 ・VRでジャンプ体験できたらよいと思う。 ・観光案内所等でもっとアピールしてほしい。 ・アンケートは外国人にも対応するとよいと思う。 ・展望ラウンジにもっとジャンプ競技の説明があるとよいと思う。 ・選手のパネルをもっと増やしてほしい。 ・スノボの展示がないので追加したほうが良い。 ・スキージャンプのスタート地点目線がわかる展望台が欲しい。									
		<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4"> 管理運営業務の利用者満足度の調査における調査標本数については、総合満足度及び接遇に関する満足度の目標値を80%としているところ、総合満足度、接遇満足度ともに9割を超えたことから、『A』評価とする。 今後も利用者の意見・要望を踏まえた事業の実施、サービスの維持向上が図られることを期待する。 </td></tr></table>	A	B	C	D	管理運営業務の利用者満足度の調査における調査標本数については、総合満足度及び接遇に関する満足度の目標値を80%としているところ、総合満足度、接遇満足度ともに9割を超えたことから、『A』評価とする。 今後も利用者の意見・要望を踏まえた事業の実施、サービスの維持向上が図られることを期待する。			
A	B	C	D							
管理運営業務の利用者満足度の調査における調査標本数については、総合満足度及び接遇に関する満足度の目標値を80%としているところ、総合満足度、接遇満足度ともに9割を超えたことから、『A』評価とする。 今後も利用者の意見・要望を踏まえた事業の実施、サービスの維持向上が図られることを期待する。										

4 収支状況

▽ 収支

項目	R7計画	R7決算	差
収入	335,306	337,271	1,965
指定管理業務収入	262,338	258,473	▲ 3,865
指定管理費	187,281	191,754	4,473
利用料金	66,555	57,188	▲ 9,367
その他	8,502	9,531	1,029
自主事業収入	72,968	78,798	5,830
支出	340,311	354,412	14,101
指定管理業務支出	273,157	281,858	8,701
自主事業支出	67,154	72,554	5,400
営業外収入	0	0	0
営業外支出	0	0	0
収入-支出	▲ 5,005	▲ 17,141	▲ 12,136
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	▲ 5,005	▲ 17,141	▲ 12,136

▽ 説明

[収入について]

・ミュージアムの機器更新に伴う休館について、計画策定時点では時期・期間とも不明であったため、R7計画は通年営業予定として計上したため、休館補填により、指定管理費は増加、利用料金収入は減少となった。利用料金収入の減少については近隣でのクマ出没も影響していると思料される。

・自主事業収入は、グッズショップやカフェの収入が増えたため増加となった。

[支出について]

・指定管理業務支出については、人件費や物価高騰の影響により増加となった。

・自主事業支出については、グッズショップやカフェの収入増に伴い、売上原価が増えたことから、増加となった。

[収支について]

・指定管理事業の利用料金収入の減少や、人件費や物価高騰に伴う支出増に伴い、計画に比べて赤字幅が増加した。

収支の説明については左記のとおり。
来場者の増加に繋がるよう、魅力ある施設づくりを行いながら、収支の改善に努めていきたい。

A	B	C	D
要求水準を達成していることから『B』評価とする。利用料金収入はミュージアムの休館などもあり計画を下回ったが、ミュージアムショップやカフェの収入が増加したため、自主事業収入は前年度実績額および計画を大幅に上回っている。今後も安定した収入確保及び経費削減に努めることを期待する。			

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持 引き続き管理運営業務の遂行のため、業務内容の見直し・適正人員の配置や経費節減に努め、安定した維持管理業務を行っている。		適	不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例及びオンブズマン条例への対応 各条例の規則に則り、全てに適切に対応した。 情報公開請求並びに、オンブズマン条例への対応はなかった。		適	不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
R7年度の施設利用者数は、特に秋以降に来場数が減少し、前年の来場者数を上回ることができなかった。 要因として、①大倉山周辺のクマ出没情報②ミュージアム機器更新による休館③雪害による交通網のマヒが影響したと推測される。 ミュージアムについては、概ね計画に沿った活動ができた。 ミュージアム内で開催したミラノ・コルティナ2026大会の企画展示は、パリ2024大会時の企画展示に引き続き、JOCとの共催で実施することで、改正博物館法で重要視されている博物館連携を実践するとともに、各競技連盟・協会との円滑な調整体制を実現し、展示内容を充実させた。例年10月に実施している2つのジャンプ台を結んだルートを歩行するノルディックウォーキングイベントは、ヒグマの出没情報の対策として、大倉山ジャンプ競技場敷地内でのノルディックウォーキングに内容を変更することとなったが、上り坂・下り坂や草地など様々な地形に応じた歩き方のレクチャーと競技場の解説を阿部館長及び学芸員から行うことで、参加者から好評を得た。また、各種体験装置やウィンタースポーツシアターの機器類の故障・老朽化等に伴う更新のため、11月10日～1月16日まで休館となり、この間、来館者にオリンピック・パラリンピック及びウィンタースポーツへの関心と理解を深めていただけるよう、より臨場感のある体験及び最新情報の提供のため、札幌市・委託業者との打合せ、関係機関への連絡調整に尽力した。オリンピック・パラリンピック教育に関しては、熊出没情報を受け、バスの正面乗降やプログラムの変更対応により計画どおり実施でき、計65校の学校の受入れを行い、各学校から好評価を受けた。札幌市・北海道オールオリンピアンズ・当館の3者で情報交換及び共有することが迅速な課題解決に繋がった。また、JOA（日本オリンピック・アカデミー）総会及びJOAセッションにおいては、初めての地方開催となる札幌市での開催を成功に導くとともに、対面での実施となったことで、スポーツミュージアム同士の連携や各大学の教授、研究者、オリンピック関係者等と知識向上のための意見交換を密にし、様々な立場から見たオリンピック・パラリンピックのあり方を踏まえつつ、その価値や魅力を改めて見つめ直したことで、当館の収蔵資料がいかに重要かつ貴重であるかを再認識する契機となった。 自主事業については、R7年度もイベント広報活動に力を入れ、ビックラ！！スポフェス in 大倉山・大倉山冬花火等各種イベントともに来場者数が前年より上回る結果となった。また、夏期は引き続きリフト夜間営業を実施したほか、さらなる認知度の向上及び利用者増をめざし、SNSキャンペーンを実施した。平日は、前年同様の利用者数であったが土日祝の利用者数が増加し、また市民の利用も増加した。札幌の主要な夜景観光施設としての魅力向上や情報発信をすることができた。 全体としてコロナ前の状況に戻りつつある中、社会情勢に合わせた対応を行い、ジャンプ競技の普及振興および競技力向上につながる施設づくりと札幌を代表する観光施設としての魅力づくりに努めることができた。	ジャンプ競技場の運営については引き続き札幌スキー連盟や各スポーツ団体と緊密に連携しながら、専門知識と経験を有するスタッフによる整備業務に万全を期し、選手が日々の練習に取り組みやすい環境づくりを心掛けるとともに、常に安全安心な大会運営に寄与し、選手の競技力向上と競技の普及振興に貢献していきたい。 ミュージアムについては、日本オリンピックミュージアム、長野オリンピックミュージアムだけでなく他の国内スポーツ関連博物館やオリンピック関連の資料を所蔵する博物館と交流を深め、日本独自のミュージアムネットワークを構築し、情報共有を積極的に行いながら、大規模国際大会誘致のための機運醸成に繋がる教育、研究、イベント等に取り組んで参ります。またオリンピック・パラリンピック教育についてはR8年度も引き続き学校の希望に寄り添う事業展開を行うため、オリンピアン・パラリンピアンと良好な関係を構築し、連携を深めることで、授業内容の一層の充実を図りたい。良好な関係の構築は、選手の協力が必要となる当館独自のイベント開催や各種展示会に向けた選手物品収集などにも繋がることから、オリンピック・パラリンピック教育の機会を筆頭として、今後も信頼関係の構築と強化を積極的に行って参りたい。 自主事業についてはR7年度も「スポフェス」、「大倉山冬花火」を継続開催することに加え、新たに夏もイベントイベントを開催することにより大倉山来場者増を図っていききたい。ショップについてはオリジナル商品をさらに充実化させ、お客様のニーズにあった商品展開を図り、またカフェについては、軽食を充実させるなど施設の満足度向上につながるよう、魅力的な商品展開を行っていききたい。 R8年度は夜間営業中の無料シャトルバス運行に加え、7月～9月の間白い恋人パークと大倉山の無料シャトルバスを運行するなど、アクセス面の課題にも取り組みながら、来場者増を図りつつ、より魅力的な施設づくりを目指していききたい。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
指定管理者としてのこれまでの実績と経験を活かし、計画に基づいた管理運営業務を行っている。 ジャンプ競技場としての運営に関しては、FIS公認のジャンプ台として求められる高い水準での維持管理のほか、NTC競技別強化拠点施設として選手の積極的な受け入れを行うだけでなく、競技団体や利用者からの要望を踏まえた運営を実施するなど、競技力向上と競技人口の拡大に向けた環境整備に尽力したものと評価できる。 ミュージアムについては、オリンピックミュージアムネットワークの教育ワーキンググループを初めて札幌市で開催し、オリンピック・パラリンピック教育にも積極的に取り組んでいる。また、機器更新に伴う長期休館中には、本市含む関係機関との打合せを通じ機器更新の円滑な実施と内容の充実に尽力し、熊出沒への安全対策を講じながら前年を上回る計65校を受け入れたオリンピック・パラリンピック教育など、通常とは異なる状況下でも確実な取組が行われた。 自主事業についても、イベント広報活動に注力したことで各種イベントの来場者数を前年より増加させた。また、継続したリフト夜間営業の実施など、札幌の主要な夜景観光施設としての魅力発信と、観光資源としての施設活用に引き続き力を入れている。 今後においても、施設の設置目的である「ジャンプ競技の普及振興及び競技力の向上」、「オリンピック・パラリンピックの理念を広く伝え、ウィンタースポーツの普及振興に寄与すること」を念頭に施設の運営管理を行うとともに、機器更新を経て新しくなった展示・体験装置の魅力を最大限に活かし、本市を代表する観光施設として更なる魅力PRIに努めていただくよう期待する。	今後も、ジャンプ競技専用施設として、競技団体と密に連携・調整し、ジャンプ競技の普及振興や競技力向上に寄与する管理運営に努めていただきたい。 また、札幌市を代表する観光施設として、一層の魅力アップに繋がるイベント開催や情報発信を効果的に行うなど、利用者・来場者の増加及び利用料金の増収に向け、積極的に取り組んでいただきたい。